

農繁期

レポート

令和6年 9月号

ニールファーム

オーナー 株式会社 新流
産地 三重県伊賀地区
水田面積 9.0アール
保証量 玄米252kg
形態品種 無農薬栽培コシヒカリ



生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

令和6年の伊賀の稲作は非常に困難なものとなりました。8月の台風は直撃がなかったものの、高温で稲が伸びすぎて倒れてしまい、刈るのが難しくなりました。9月には、雨で倒伏した稲が水につかり、刈り取りの適期を逃しました。更には機械のトラブルが4回発生し、さらに遅れました。圃場によってはイノシシによる獣害で、1/3の稲を捨てざるを得ませんでした。オーナーさんの分は何とか確保できましたが、他の圃場は良くない出来になってしまいました。ちなみに伊賀の農協の農産物検査の比率は1等米が44%(去年は69.4%、おとしは73.7%)でした。それでも来年こそは、自然に負けないような農業をやりたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

9月の作業内容

1. 稲刈り

刈取適期は出穂後の積算温度だけでなく穂の色など状態をみて判断します。適期は非常に短く、その期間に雨が降るとコンバインが田んぼに入らず適期を逃すこともあります。そのため翌日が雨予報だと日没後もライトを照らして作業する農家さんもいます。



2. 脱穀後の籾

昔の手刈りとは違い現代はコンバインで刈り取り～脱穀を行います。コンバインの容量がいっぱいになったら横づけした軽トラックに「籾」を一気に流し込み、すぐに乾燥機へ投入します。ここまでは一連の作業なので刈取後に放置は基本しないうです。



3. 乾燥

収穫直後のお米は水分量が多いので乾燥機に入れ調整します。この工程で品質は良くも悪くもなり、稲刈りよりも気を使う作業です。急激に乾燥させると粒が割れてしまったりするのですが、現在の乾燥機は改良もされているためある程度機械任せで良い状態に仕上がります。



4. 等級検査

乾燥後にもみすり機に入れ、もみ殻を取り除き製品となる「玄米」に仕上げます。不良米や小石は色選機で除き、30kg袋に詰め込みしてから検査を受けます。また、もみ殻も堆肥作りにとでも大切な物として重要な副産物ですので捨てることはしません。

